

平成 29 年度第 1 回白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

開催概要

- 1 日 時 平成 29 年 8 月 31 日 (木) 午後 2 時～午後 4 時
- 2 場 所 白石市役所 4 階 大会議室

配布資料 (以上、事前配布)

【次第】

【委員名簿】

【資料 1】人口ビジョン及び総合戦略の体系

【資料 2】施策の概要と主な取り組み

【資料 3】地方創生事業の実施状況及び効果検証

【資料 4】<地方創生>市民アンケート調査結果 (速報値:平成 29 年 8 月 31 日現在)

【資料 5】広報しろいし平成 29 年 8 月号「しろいしの地方創生」

【資料 6】地方創生関連交付金事業の採択・実施状況

- 3 議事概要 ○前回の委嘱期間満了のため、新たに委員に対し、委嘱状の交付を行った。

○新たに会長、副会長の選出。前回から引き続き会長に竹内委員、副会長に齋藤委員を選出。

1) 「白石市まち・ひと・しごと創生創業戦略」の概要について

○総合戦略概要について

資料に基づき、事務局より人口ビジョン、施策の概要と主な取組について説明を行い、戦略の概要について確認した。

- ・各委員確認、了承。

○地方創生市民アンケート調査集計結果について

資料に基づき、事務局より 5 月 15 日～5 月 31 日に実施した調査アンケート結果について説明を行った。

- ・定住促進策についての結果で「雇用の拡大」が一番多い回答となっているが、採用したいという企業は増えている。しかし、そこで働きたいという人が来ないということでミスマッチが生じている。

→実際に白石の有効求人倍率は改善されてきているが、市民から働く場所がないという意見も聞かれるというのは企業と市民の

間でミスマッチが起きている。市としてもミスマッチを解消するためにホームページ・広報等を活用して周知していきたい。

- ・ 20～65歳の市民を対象に調査を行っているが、20歳以下の人の意識調査を行うことも必要ではないか。若い人たちの意向を把握することも必要だと思う。

2) 平成28年度白石市地方創生事業の効果検証について

○基本目標1 産業の活力を生む新しい価値を創造し続けるまちづくりについて

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行事業、新規事業、継続事業の各項目について説明を行った。

- ・ インターンシップ参加人数について、統計を取っているところの数字だけでは漏れが出てくると思われるので、色んな機関の数字を横断的に確認することが必要だと思う。
- ・ H27～H28で雇用保険に加入している割合を見ると、55～65歳では増えているが、22～29歳でもっとも減少幅が大きくなっている。調査をしたところ仕事を探す上で重視するものとして、賃金もあるが人間関係・働きやすさを重視する傾向にある。
- ・ 地域の人が働く職場に何を求めているのかをもう少し詳しく調べてみることも必要ではないか。
- ・ KPIとして進学応援奨学金貸付人数があるが、これは行政だけでやるのは難しいのではと思っている。行政と地元企業が協力して制度を考える必要もあるのではないか。

○基本目標2 市民が主役になって地域をつくり、交流を楽しむまちづくりについて

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行事業、新規事業、継続事業の各項目について説明を行った。

- ・ 年間観光客入込数を数値目標にして達成率を出しているが、一番経済効果があるのは宿泊人数だと思う。宿泊人数を調べるのは難しいか。
→統計上は宮城県の観光情報で把握できる。
- ・ 市町村毎の宿泊率を確認することもできると思うので、他市町村と比較してどうなのかを把握するためにもデータとしてあるといい。
- ・ KPIとして移住世帯数が設定されており、実際に移住世帯数が増加しているが、移住世帯に対して移住の理由等を把握するような調査はおこなっているのか。もし、行っているなら結果を教え

ていただきたい。

→現時点で調査等はおこなっていないが、大事な情報であるので今後把握するよう検討していきたい。

○基本目標3 安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまちづくりについて

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行事業、新規事業、継続事業の各項目について説明を行った。

- ・白石で子どもを産めない状況が続いているが、今後も白石で子どもを産めないという状況は変わらないのか。
- ・仙台以外はどこも産科が少ない状況で、産科の先生になる人自体が減少している。そのため広域で産科医療がどうあるべきなのかを考える方が現実的ではないかと思う。
- ・産科セミオープンシステムを導入する前は年80数名が刈田病院にきていたが、導入後も2月までで59名の方が診察にきているので、最初から産科セミオープンシステムというものが利用されていないというわけではない。
- ・女性は自分に合う分娩やお産のシステムを選びたいので、病院の特徴や情報などが聞ける相談窓口などがあるといい。
- ・地域によっては子育て情報誌を活用したりNPO等が力を合わせて情報提供をしているところはあるので、そういった仕組みづくりは考えていく必要があるのではと思う。

→妊婦健診についてはしっかり対応させていただき、分娩については病院の特徴などを説明し、お母さん自身に選んでもらうというのが産科セミオープンシステムの流れになっています。産科セミオープンシステムは医師の過剰な負担を減らし、医療事故等がおきないようにして安心して出産できる環境を作っていくために進められています。安心して出産できる環境を整えるということが一番重要なことだと思うので、これからも広域での様々な連携を行っていきたい。ただ、医師招へいについても諦めたわけではなく頑張っているなので、引き続き医師の招へいには努めていきたい。

○基本目標4 美しい自然を受け継ぎ、安全で快適に過ごせるまちづくりについて

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行事業、新規事業、継続事業の各項目について説明を行った。

- ・各委員からの質疑特になし。確認、了承。

○その他

事務局より

- ・今回の会議結果をうけ、9月6日より開会される定例議会において、行政報告させていただく。

委員より

- ・以前参加したまちづくり関係の講演会の中で、集落単位で持続可能な暮らしをしていくためにはどうしたらいいかということで、中学生以上の全住民にアンケートを行い、その結果を受けて自治会での政策を決めていくということを提唱していた。コストもかかってくることなので、すぐにできることではないかもしれないが検討していただければと思う。